

2010
WINTER
冬号

平成22年12月5日発行

冬の島根路で文化人の心を感じてください。

著名な文人の故郷でもあり、多くの文人が訪れた島根。穏やかに流れる時間や風情が文人たちの心を癒したのでしょうか。凛とした空気が立ち込め、自然の風合いが美しい季節。島根を訪れて、文人たちの足跡に触れてみませんか。

島根の旬に出会う旅。



Shimane
Bimi Kiko

冬紀行

数多くの文人墨客に愛された町、二人の文人を偲び、島根路を楽しむ冬紀行。

松江
MATSUE



小泉八雲
YAKUMO KOIZUMI

島根を愛した文人はたくさんいます。その中でも、日本の文学史にその名を残した二人の文豪が暮らした町並みを巡り、その足跡を辿ってみましょう。また、味違う冬の旅が楽しめます。

城下町として栄えた松江市に來松し、英語の教師として働きながら文人としても多くの作品を残したラフカディオ・ハーン。小泉セツと結婚、帰化して小泉八雲と名乗りました。来日前から「古事記」に興味を抱いていたこともあり、出雲神話に満ちた松江での暮らしは心弾むものでした。その思いは八雲が描いた作品にも色濃く表れています。そんな八雲の足跡を

迎るなら、小泉八雲記念館と夫婦で暮らしていた武家屋敷の旧居。城下町の佇まいを残す塩見繩手にあり、八雲が感じていた世界を垣間見ることが出来ます。

八雲が気に入っていた場所のついでに、穴道湖に沈む夕日を眺めることができる蕎麦屋がありました。美しい夕日を見ながら、大好きな蕎麦とお酒を友人と楽しむのは、至福の時間だとうたっています。また、雄大な自然と歴史を漂わせる隠岐も好きでした。特に、島前にある美しい入江には自ら名前を付けたほど。現在は湾岸道路となり「へるんろーど」と呼ばれています。今年、来松百二十年を迎え記念イベントが開催されました。

もう一人は、山陰の小京都と呼ばれる津和野町に生まれた森鷗外。津和野藩に仕える医師の家に生まれ、幼いころか

ら学問に対する情熱は並々ならないものがありました。十歳で父親と共に上京すると、さらに勉学に励み軍医となりましたが、文学への熱い思いを持ち続け、苦悩しながらもすばらしい作品を残しました。そんな鷗外の足跡を辿るなら、森鷗外記念館と幼少期を過ごした旧居。また、藩校養老館跡は鷗外が学問を学んだところで、西周などすぐれた人材を輩出したことでも知られています。津和野町には江戸時代から魚町（うおちょう）と呼ばれる通りがあり、魚屋や宿場が軒を連ねていました。日本海の漁港から魚を運ぶ道「さば街道」の存在が山里の食文化に大きな影響を与えていたようです。特に、塩漬物の「刺し鯖」は、催事や神事のお供え物として代々伝わる料理で、人々に親しまれていました。幼い鷗外も食べていたのかもしれない。平成二十四年、生誕百五十年を迎えるのを記念し、今年からさまざまな記念イベントが開催されています。



津和野
TSUWANO



森鷗外
OUGAI MORI

郷土料理「へかやき」※上記写真

へか焼きは魚を使ったすき焼きで、へか鍋ともいわれています。独特な底の浅い鉄製の鍋を使い、旬の魚と野菜を煮込んだ港町ならではの料理で、醤油と砂糖の甘辛い割り下が食欲をそそる一品です。この郷土料理を味わえるのが、大田市波根町にある昔ながらの旅館街。ひなびた趣の町並みはどこか懐かしく、日本海を望むロケーションも最高！海岸線には荒波が創り出した景勝地が点在し、冬だからこそ体感できる自然の厳しさを観ることができます。お土産には、地元の新鮮な魚とタラを原料として作られる蒲鉾「丈兵衛蒲鉾」がお勧め。プリッと食感と魚の味わいをぜひご賞味ください。

問/大田市観光協会 TEL0854-89-9090 製造元/丈兵衛蒲鉾店 問/和田珍味 TEL0854-87-0611



旬のイベント情報や詳しいマップはこちらでチェック！
さらに詳しく知りたい方のための便利なサイト
しまね観光ナビ

http://www.kankou-shimane.com/

SHIMANE BIMIKIKO IN WINTER

「しまねの美味しいもん」が当たる！読者プレゼント!! 詳しくは裏面プレゼントコーナーをご覧ください!